

『自分の重荷をおき、主の重荷を負う』

～痛みの方かる人に～

詩篇 55 : 22

今あなたには心のゆとりがありますか？心にゆとりがなくなるのは何ででしょう。寛大な状況だと相手の失敗を理解し許すことができます。人は自分のことで葛藤しているとゆとりがなくなってしまいます。そしてその人の痛みがわからないと相手の失敗を許せなくなってしまうのです。だからまず私たちは①自分の重荷を置く(詩55:22)今あなたの重荷をすべてゆだねなくてははいけません。「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのところに来なさい。わたしが休ませてあげます。」(マタイ11:28)まずあなたの心の思い煩い、葛藤、焦り、不安を神の前に出さなくてははいけません。確かに過去はあなたの土台ですが、それがあなたの明日につながるわけではありません。むしろ明日に進むためには過去を捨てなくてはならないのです。昨日までの葛藤を取り、心をリフレッシュさせましょう。あなたは今どんな重荷をもっていますか？私達の人生は証を作る為ではありません。自分自信が喜ぶ為です。喜んで生活できる事で結果、証となるのです。私達が喜ぶ為には悩んでいては喜ばません。悩みにはたいてい人が関係しています。今あなたが人の為に悩んでいる事は最終的には自分に振りかかってくる事柄だから悩んでいるのではありませんか？そうすると何の為に生きているのか見失ってしまいます。相手の為ではなく、自分に振りかかってくるのが嫌で悩んでいると自分を見失ってしまいます。だからこそ今あなたの重荷を必ず置かなくてはならないのです。置いているつもりだと、解決されたようでまたそのことを思い出し、赦せないあの言葉や言動がよみがえってきます。そのようなものは主の前に置いて下さい。「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。」とあります。私たちが見続ける対象はイエスキリストです。イエスから目を離れていると自分で重荷を負おうとしてしまいます。自分の足かせを置いたら、そこにイエス様の十字架を置いてください。あなたの足かせをとるために十字架にかかれたのです。あなたが弱り果ててしまわないためにキリストの十字架の痛みを思い出しましょう。(ヘブル12:1~8)自分の重荷を置くことができたら②主の重荷を負う(イヨハネ5:1~)足かせを置いたら、私たちは何も持たずには生きられません。なぜならアダムとイヴが罪を犯してから人は苦しんで糧を得なくてはならなくなったからです。主の重荷は隣人を愛するという事です。あなたの頭に浮かぶ隣人の悩みを負って下さい。愛する方法とは何でしょう。愛するとは犠牲を払うことです。犠牲とは相手が負う痛みを自分が負うことです。犠牲を忘れると結果を求めようになってしまう。結果を求めることは愛ではありません。③重荷を負い合う(ガラテヤ6:1~10)神の命令を全うする、つまり愛するためには互いの重荷を負い合わなくてははいけません。負いあう時、痛みが伴うかもしれません。それは相手の重荷を負う事は犠牲を払う事もあるからです。その人との間に犠牲を感じないなら、既にその人に対しては重荷を負う事ができているという事です。肝心なのは愛する事に犠牲を感じてしまう相手に対してです。重荷を負う事がしづらい相手の重荷こそ負う必要があるのです。嫌な人に対してそれが出来れば、その事を通してより多くの人々を愛していく事ができるでしょう。私達はそこまでして何の為に犠牲を払い痛みが伴う事をしてまで相手の重荷を負わなければならないのでしょうか。それは④痛みの方かる人になる為です。ヘブル4:15「私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。」イエス様は痛みの方かる人ではありません。痛みがわかる人は人を愛することができるようになり、自分の痛みの中にも脱出する方法を見つけることができるのです。そして痛みを知っている人は相手の痛みにも真剣にこたえられ、二度と同じ痛みを繰り返さなくなります。愛するとはただ優しくすることではありません。あなたが痛みがわかるようになって他の人が痛みをくり返さないように愛する事です。それがあなたの責任です。その為に痛みの方かる人になる事が必要なのです。「誰かの為に何かをする。」これだけでは虚しいかもしれません。しかしそこにイエス様の愛を持ってすれば、そこから素晴らしい将来が開けるのです。その人の一時ではなくその人が一生を通して同じ痛みを通らない方法を主から受取り隣人を愛して下さい。イエス様は私達の為に命を持って愛を与えて下さいました。それ以上何を求める事ができるでしょう。そのイエス様の愛にこたえる為にあなたはどれだけ人の為に時間を費やしていますか？自分の事は主にゆだねておけば必ず解決されると約束されています。あなたが人に対して主から示された事はその人にとっては嬉しい事ではないかもしれませんが、しかし、それが流すべき愛であればあなたは主と共に行動しなければなりません。もう一度、イエス様の命がけの十字架の重荷を思い起こして下さい。思い起こすとは自分の重荷を主のもとに置き他の人の重荷を負う事です。あなたの隣人をただただ愛し、痛みの方かる人になりましょう。